

高教組通信 No.21

2011年12月21日
兵庫高教組書記局

URL <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

2月にも「学区数」と「実施年度」を決定したい あくまで地域の声を無視する構え

高教組は、12月14日、高校教育課大石参事（高校教育改革担当）と交渉を持ちました。県教委は学区検討委員会の「報告」を受けて、1月か2月には教育委員会会議にかけて、「学区数」と「実施時期」について決議してもらう方向ですすめているとのこと。自治体や県民の意見は「見直しに対する反対ではなく変化への不安」であり「報告」の中に反映されていると強弁し、あくまで「報告」に沿って「実施計画」を策定する構えです。

圧倒的反対を賛否相半ばのごとく描き出そうとする県教委

Q 多くは学区を広げるなどの意見書、但馬では北但、南但学区を残せという声が圧倒的だが。
A 広げて欲しいという声もある。但馬にはそういう要望もあったが、やはり生徒の選択肢を拡大してほしいと言う声もある。そういう声を総合的にうかがった中で検討委は兵庫の学区のあるべき姿としてはこれが望ましいと報告を出された。

「行政的圧力」で「学区拡大」を押し付けるのか

Q 県民の直接の声や、自治体の意見書を教委としても受け止めないといけない。それも受け止めて出た報告があるからすでに受け止め済といって切り捨てたらだめだろう。
A だから、留意事項、配慮事項がいっぱい書いてあるように、それを踏まえて不安どおりにならないように計画を立てていくのが我々の責任だと思う。
Q これ以上学区を広げないよという意見書には、学区数決定後の配慮では無理だろう。
A 学区を広げた方がいいと説明するのが我々の責任。自治体に行って説明している。
Q 納得しているのか。
A 行政的には相当納得していただいていると思う。話の中では。

納得のいく説明ができず、居直る県教委

Q なぜこのような報告になったのか、県民に十分に説明する必要があるのではないか。
A 経過も、一つ一つのステップで説明し、意見も辛抱強く聞いて議論されたと思う。報告発表する記者会見の時に記者に伝え、それについては相当報道されたと思う。報告自体が聞いてこうなったという結果。委員長も新聞社テレビ局十何社来ている中で1時間ぐらいかけて説明した。報告書自体が説明。これ以上説明する必要はない。

不人気校の定員減と統廃合で定員割れを減らす他県に学ぶのか

Q 選択肢が増えるのは一部の生徒しか増えないという声が多くある。
A 受検学力によって学校を選ぶというやり方は狭い学区少ない学校数だからそうなる。大きな学校数になったら学力範囲の中で選択肢が増える。
Q 全国的にそうなっているのか。
A なっている。広がったところいろいろ聞いたら、定員割れがへったとか、選択肢が増えて喜んでいることが多いとかそういう結果は聞いている。

複数志願制の見直し案を検討

Q 遠距離通学への懸念に対してどう答えるのか。学区数を発表するときには、具体的な解決策がなくてはならないのではないか。
A 選抜制度については時間をかけて決める必要がある。学区数発表時には無理。具体を決めるのには相当時間がかかる。例えば、その他志望校は旧学区でとどめるとか、時間で行く高校数を変えるとか、その他希望自体をなくすとかいろいろ方法がある。
Q 複数志願にして退学者数は減ったのか。進学実績が上がったのか。
A 県として把握する必要があるという意見もある。

「弱肉強食」の「生き残り」が「切磋琢磨」なのか

Q 郡部では学区拡大が教育だけでなく地域社会の将来に影響を与える問題と考えており、地域の高校どうなるのか不安を抱えており、意見書がいっぱい出てくる。学区拡大の問題は教育委員会で考える問題を超えて、そこの地域にとっては町づくり、地域の将来ということに深く関わった話になっている。学校教育審議会という、もっと広範な方が出されている会がある。そういう地域社会の観点を踏まえた議論ができるような場を保障しないといけないのではないかと思う。それで要求書を出している。どう考えているか。
A 高校が地域文化や地域振興の拠点であるというのはその通り。郡部の小規模校は規模の維持も今の小さな学区では難しい。学区を拡大して広い、人口の大きなパイのなかで学級数定員を考えることによってかえって小規模校などは生き残りの戦術が立てやすくなる。東雲も千草も志願者が増えた。
Q 学区拡大で解消というのは絵に描いた餅。全ての普通科が生き残り競争に巻き込まれる。
A 高校にはぜひ切磋琢磨して欲しい。学校がみんな、言葉は悪いが、すきま産業を見つけて特色づくりをうまく見つけてくれたらいいと思っている。

地域の意見をしっかり聴き、高教組とも十分に協議せよ

Q ぜひ地域の意見を聞く手だてをして、時間をかけて、県教委が勝手に決めてしまったとならないようにしてほしい。
A ご理解いただけるように頑張りたい
Q 我々やPTAの要望があれば対応していただくことを願います。
A そういう姿勢はずっと持っている。